

## 労働図書館新着情報

## 今月の図書紹介

<p>①中村和彦著『入門 組織開発』光文社(204頁,新書判)</p> <p>バブル経済崩壊後、日本企業は減収を回復させるため、組織のハード面に対する改革を実施したが、「人」や「関係性」などのソフト面には多くが手をつけなかった。本書は、ソフト面の改善までして初めて組織改革を実施したといえると強調。日本の組織の現代的課題である①活き活きとできない社員②利益偏重主義③個性化する仕事の仕方④多様性の増大などを取り上げ、変革するためのアプローチを提示する。いま組織開発が必要とされている理由、組織開発の特徴と歴史、理論と手法、進め方を紹介するとともに、なぜ、組織の人間の側面が重要な経営課題となるのかを組織開発の第一人者がわかりやすく解説。Y理論をベースとした組織マネジメントの必要性を主張する。</p>	<p>③豊田義博著『若手社員が育たない。』筑摩書房(236頁,新書判)</p> <p>「最近の若者は、マジメで優秀だが、成長がみられない」。いわゆる「ゆとり世代」とされる彼ら・彼女らはなぜこのように分析されるのか。本書によれば、育成上の懸念材料として「コミュニケーション不足」問題が浮上。同世代とは深く交流できるが、年齢の異なる人たちとはうまく交われないという特性である。さらに「成長する自由」から逃走している「リスク回避志向が高い」などと育ちにくくなっている若手社員の現状と課題を整理。仕事の高度化など、従来と異なる複雑な仕事をこなさなければならなくなっている現在、若者が成長するには、一つの会社内でなく、大学教育や社会環境の改革など、社会協働型「育成・活用」システムの構築が急務と指摘する。</p>
<p>②柳沢正和著『職場のLGBT読本』実務教育出版(263頁,A5判)</p> <p>LGBTとは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を取った、性的少数者を意味する総称。欧米では、芸能人や企業経営者、政治家などが自らLGBTと名乗り出ているが、日本でも、指針の改正によりLGBT差別はセクハラとなるとともに、ダイバーシティ活動の一環として取り組む企業も増えつつある。本書は、当事者アンケートによるLGBTに関する一般的情報、先進企業の実例や職場環境整備のポイント、当事者や積極的支援者へのインタビューなどで構成。「ありのままの自分」で働ける環境を目指す、企業の取り組みを中心にまとめられた初めてのLGBT実務書。オリンピック憲章も、性的指向による差別を禁止している。</p>	<p>④武谷雄二著『働く女性と健康』産業医学振興財団(v+165頁,A5判)</p> <p>女性の社会進出は、女性の自立を促し、生きがいを持って充実した人生を送るために大いに推進すべきこととされる。一方、少子化による人口減少社会に突入し、労働力人口が減少しつつある日本においては、多くの女性が働くことは、産業の活性化や国の発展にもつながる。しかし、男女の身体的機能は異なり、さまざまな疾患に罹患するリスクにも性差がある。さらに、月経に関する悩みや女性特有の疾患、妊娠・出産・授乳など、女性の就労に関しては、男性と異なった配慮が必要となる。本書は、実際に仕事をしている女性の健康管理についての産科婦人科学研究者・労働者健康福祉機構理事長による啓蒙書である。妊娠・出産への社会的な支援をとくに強調している。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2015年7—8月労働図書館受け入れ)

⑤道垣内弘人他著『国際社会の変動と法』岩波書店(ix+216頁, A5判)	⑱マーティン・フォード著『テクノロジーが雇用の75%を奪う』朝日新聞出版(301頁, A5判)
⑥大竹文雄著『経済学のセンスを磨く』日本経済新聞出版社(216頁, 新書判)	⑲野川忍著『労働協約法』弘文堂(xv+462頁, A5判)
⑦桑田耕太郎他編『制度的企業家』ナカニシヤ出版(xxviii+442頁, A5判)	⑳中窪裕也他著『労働法の世界』有斐閣(xxiii+504頁, A5判)
⑧一条和生著『リーダーシップの哲学』東洋経済新報社(xi+299頁, A5判)	㉑小宮文人著『労働契約締結過程』信山社(x+118頁, B5判)
⑨田中巨他編『企業統治の法と経済』有斐閣(xii+403頁, A5判)	㉒森井利和編著『労働問題を讀み解く民法の基礎知識』労働調査会(xxi+583頁, A5判)
⑩鷲田祐一著『イノベーションの誤解』日本経済新聞出版社(259頁, A5判)	㉓西川清之著『人口減少社会の雇用』文眞堂(xi+240頁, A5判)
⑪清水レナ著『輝く会社のための女性活躍推進ハンドブック』ディスカヴァー・トゥエンティワン(183頁, 四六判)	㉔坂幸夫編著『現代日本の企業組織再編と労働組合の課題』学文社(iv+220頁, A5判)
⑫河合克彦著『役割・能力・成果…〇×主義』を越えて』日本生産性本部生産性労働情報センター(329頁, A5判)	㉕マーティン・グラバーマン著『戦時ストライキ』こぶし書房(221+iv頁, A5判)
⑬鷲田清一著『しんがりの思想』KADOKAWA(222頁, 新書判)	㉖大内裕和他著『ブラックバイト』堀之内出版(286頁, 四六判)
⑭西條剛央著『チームの力』筑摩書房(221頁, 新書判)	㉗杉山崇編著『入門! 産業社会心理学』北樹出版(252頁, A5判)
⑮佐藤郁哉著『社会調査の考え方』東京大学出版会(x+297頁, A5判)	㉘佐久間大輔著『精神疾患・過労死』中央経済社(2+9+237頁, A5判)
⑯増田雅暢他編著『アジアの社会保障』法律文化社(vi+163頁, A5判)	㉙中村真由美編著『弁護士ワークライフバランス』明石書店(235頁, A5判)
⑰ロバート・カステル著『社会喪失の時代』明石書店(487頁, A5判)	㉚甲村和三編『キャリアを学ぶ』学術図書出版社(iv+222頁, A5判)

## 労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書115,000冊、洋書30,000冊、和洋の製本雑誌25,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間: 9:30 ~ 17:00

休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659

労働図書館 HP: <http://www.jil.go.jp/lib/index.htm>

利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

